（大正二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十四年三月十日　常磐毎日新聞　〔金曜日〕　第四千四百四十五號　〔一〕

先づ家庭から

擧國一致の實を擧ぐ

陸軍記念日を中心とし

平婦人會が各種の行事

青沼市長夫人を會長とする平婦人會は三月十日の陸軍記念日に當り我が國が東亞の防衛と秩序建設のため日露戰爭、滿洲事變、今次支那事變に幾多の犧牲を拂ひ終始一貫、堅忍持久、この〻聖戰を進めつゝあることを會員が深く認識し擧國一致時艱の克復に努めん爲め先づ各自の家庭の平和と整理に勵み且つ隣保相助の實を擧げんと九、十、十一の三日間を通じて毎戸國旗を、掲揚すると共に毎日正午を期し各家庭や所有の位置で宮城、靖國神社を遥拜し默禱の儀禮を行つて皇國の興隆と皇軍の武運長久を祈願し右行事の三日間中に各自適當の時を選び傷痍軍人及遺家族を慰問優待に努むる一方忠魂碑を參拜するといふ

不運な酌婦が

船大工と情死

積る前借に泣く

行詰まつた

訓盲院の女生が

赤誠慰問袋

磐城訓盲院生徒の杉孝子さんは盲目の身ながら日頃の小遣錢を節約して作つたものですと眞心こめた慰問袋一ケを今九日市役所に寄託係員を感激せしめた

鹿島駐在所

新築決定

鹿島村駐在所は腐朽甚だしくこの程の村會で近く新築されることになつたがこの間同村診療所に移轉事務を執ること

木炭の增産協議

ガソリン代用とし

急速に圓滑な配給

これは燃料國策の重要性に鑑み政府の方針に順應し急速圓滑な生産配給を期すを目的としたものだけに生産者から期待されてゐる

倘郡内の深渡、川前方部には既に實施されて居る

石城郡内及び双葉郡富岡以南木炭生産者のガソリン代用木炭生産並に販賣統制協議會は來る二十七日午前十時から平市内マルトモホールで開かれる

縣議の補欠戰は

無競爭か

養正會が斷念

政民兩派協調進む

本郡下に於ける縣會議員の補欠選擧は既記の如く來る廿二日執行される事になつたが任期が僅かである所から此際時局下の對立鬪爭を避けたいと政民兩派の意嚮は互讓の精神發露に一致して居る模樣であつたが立憲養正會が適二無二候補者を押し立てる形勢があり無競爭は至難と見られて居た矢先き養正會本部は

四月廿九日迄組織完成の運動に邁進すべきで此際補欠選擧は候補者の擁立を見合すべしとの指令を石城支部に發し來つた爲め意氣込んで居た同支部は今回の補欠戰を斷念し陣頭に馬を進めぬ事に決したので今後政民兩派の協調如何に依つては無競爭當選の夢が實現する譯である

歸還兵座談會

小名濱町では明十日の陸軍記念日に際し小學兒童講堂で歸還將兵の座談會を開くことになつたがこの外鄉軍分會を中心に町有力者、來校育補充兵の忠魂碑參拜及び時局に關する講演會を催し銃後の護りを一層强化することになつた

消防組頭

植田署會議

植田署管内消防組頭會銃後の會合はけふ九日同署樓上に開き警防團組織並に優良組員の表彰について打合せた

理髮代獻金

管中の職員生徒一同は理髮代を節約した金十圓を今九日市投所の手を經て獻金したがこれで十五回目である

四倉の鄉軍

町鄉軍分會では四倉の程總會を開き分會長以下役員を左の如く決定した

△分會長木村守江△副分會長本田豊、山下房松△幹事金成仙治、國玉儀重郎、庄司操△參事仙地三郎、管野清、賀澤龍雄、岡田重一、新妻政雄

傷病兵慰問

小名濱町女給婦風會代表十二名は十五、六の二日間に亘り若松、飯坂、仙臺の各陸軍病院を訪れ鄉土出身の傷病兵を慰問することになつた

良過る景氣に

酌婦も不足

平市の飲食店方面では餘り景氣がよ過ぎて酌婦の不足を生じた結果規定の年齢に達せぬ少女を女中或は見習等の名で客席に待らせて營業をしてゐる業者もあるので平署は是正に關し嚴重取締ることになつた由

平電氣鑄鋼所が

關西資本で飛躍

阪神電氣と合併成る

平市堂ノ前合資會社平電氣鑄鋼所は東北地方に於ける電氣鑄鋼業の草分けとして共の將來性を刮目され殊に最近の軍需景氣の波に乘り益々飛躍的の業績を收めつゝあつたが今回更らに西宮市の阪神電氣製鋼株式會社と合併成り同社の平分工場として一層業務の擴大强化が圖られる事となつた

因に阪神電氣は資本金三百萬圓、社長は神戸市の長谷川源太郎氏で日本スレート其他十五の子會社を持ち進展の一路を辿つて居る

尚平電氣鑄鋼所長の木暮貴司氏（木暮武太夫代議士令弟）は語る

阪神電氣の常務取締役には前當所長の畑山氏が就任して居り當方の狀況等は一切詳しいから合併と共に非常な强化を遂げるものと想像されますが今後の擴大計劃等は今の處私には解りません

尚同工場は現在所在地の向側新川端の所有水田を中心として敷地の擴張を圖り目下各方面に土地買收の交涉を開始して居る

四倉古物組

四倉醬管內古物商組合の新役員はこの程の總會で左の如く決定された

△組合長伊本春松△副組合長田中勇士△會計神谷源吾△幹事宮澤光顯、新妻永三、高根澤興作、新妻正勝、小出喜平、吉田兵吉△事務員伊本洋

自動車事故と

運轉手の素質

けふ自動車協會の

評議員會議題

既報―自轉車協會平支部では今九日午前十時から平署會議室で評議員會を開き更に午後一時から總會を開催、諮問事項「事故防止並に運轉手の素質向上の良策」に就いて審議した上十四年度の豫算竝に自動車協會の總會開催に就いて協議したが

縣協會の總會は既記の如く花の四月上旬午市公會堂に開き終つて松ケ岡公園で園遊會を催すことになつた

尚指示注意事項は左の如くである

一、自動車交通事故防止の件

二、車輪の完全監督の件

三、營業其他許可手續に關する件

四、タイヤーチューブ配給申請に關する件

五、ガソリン取扱方に關する件

六、事業計畫等の場合における注意の件

七、運轉免許證の効力に關する件

八、代用燃料直販價に關する件

軍刀と誤つて

盜まれた會旗

今朝路上に棄らる

養正會の大痛ごと

玉川村大字住吉立憲養正會石城支部員農大河原今朝義君は昨八日同支部の會旗を修繕の爲め持參來平午後九時頃平郵便局內で手紙を書いて居る間に傍らの會旗を何者かに盜み取られ青くなつて平署に届け出たが今朝十五町目地內に棄てられてあつたのを平消防詰所の佐藤新之介君が發見届け出た

犯人は未だわからないがサックに入れてあつたところから軍刀と間違つて盜取したのではないかとみられて居る

故山崎翁其他

追善の謠曲

喜多宗家から

三師範が來平

平地方に於ける謠曲喜多流中興の礎と云はれる磐城聖人故山崎與三郎翁、先般急逝した同流師範佐藤芳松氏、今次事變の華と散つた管本利雄氏の遺德を忍ぶ爲め平喜多稽古會が主催となつて宗家から上野八朗、伊藤千六、後藤得三の三氏を招き十九日午前九時半から公會堂日本間に追善謠曲會を開催する、先づ讀經に始り加茂其他の素謠や獨吟が數番あつて小野勝康氏外連吟服に次ぎ左の仕舞に移り

（鵜之段）清野キヨ子（紅葉狩）鈴木留藏（花筐道行）神谷辰夫（谷行）井澤重平（女郎花）山崎喜代子（松風）山崎菊子（融）山崎忠兵衛

宗家師範の素謠觀法師と三井寺があつて上野八朗氏の『綱之段』伊藤千六の『藤戸』の各仕舞が演ぜられると

平市人事

出生

△三丁目十七日下福島市下益三中山三郎氏同居者鈴木三治郎氏（三）

△六人町一、荒川トクさん夫清吾氏（六）

△正月町一二篠崎梅松氏四女ヒロ子さん

死亡

會社合併公告

當會社ハ昭和十四年二月二十七日社員總會ノ決議ニ依リ西宮市今津眞砂町十二番地阪神電氣製鋼株式會社ト合併シ權利義務一切ヲ全會社ニ引繼ギ解散スヘキニ付會社ノ債券ニシテ右合併ニ異議アル者ハ昭和十四年五月九日迄ニ申出ラルベク此期間內ニ異議申出ナキトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做サルベシ

右商法第二百二十五條及第七十八條ノ規定ニ依リ公告仕候也

昭和十四年三月一日

平市堂ノ前四番地

合資會社　平電氣鑄鋼所

清新の客室

お一人毎に新らしい

裝置の浴室完成

無類の清潔

なるこ旅館

小名濱町

館主　芳賀とく子

開業致しました……。

どうぞ御引立の程をお願致します。

春!!!

春ともなれば

蜜豆が欲しくなりますね

美味しい　みつ豆

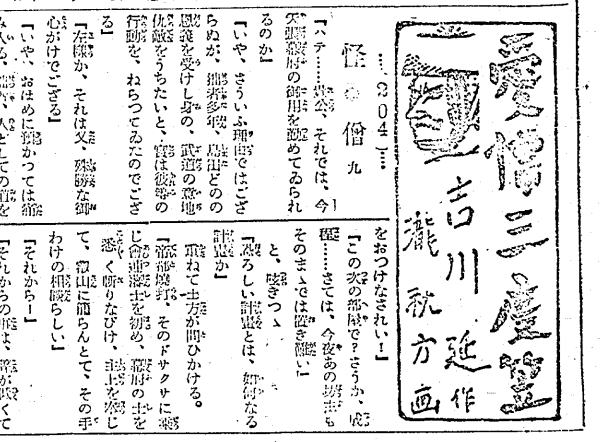
是非!!御試食を……

フルーツみつ豆・あんみつ豆等御座います。

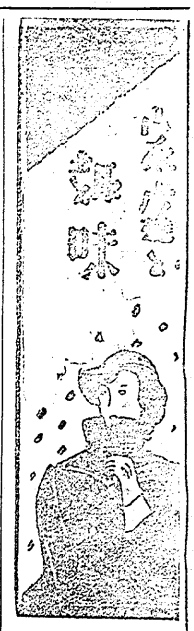
福壽軒食堂

平田町

電話二八番



三月九日　夕刊
常磐毎日新聞社
明日は北東の風晴
天氣豫報
今晩は北西の風晴

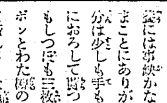


便利帳

ころんだり、ぶつかったりして腫たその他を地面や壁などに打ちつけた時、すぐ布を冷水にしめしてその部分にあて、腫に腫脹をうにしますとアザの殘るのを防ぐことが出來ます

お魚のむだ

平井恒子



我が國は魚類が豊富で價格も安いので、昨今の經濟難時代にも國民の榮養には缺かないと云ふのは、まことにありがたい事だが、自分が少しの手も煩らさずに魚屋におろして貰つて切身にした殘りつぼも三枚に下した中骨もポンとわた類の中に捨てこませて惜しまうな顧一つしない。一體魚のこしらへ方と云ふのが大まかなもので、切り下ともいイカの足もヒラメの骨頭も、さうさと切離すのを常識としてゐるが、それらを煮とも焼とも出來ずに棄ててしまふことばかりをこはしてゐるのは、まことに殘念な事と思ふ

私ではひと九州で育つて魚は自分で料理するものと心得けられてゐるので、東京の魚屋をとどないですが、東京のもの結構に思はおろすことも出來ず夢をつくることも知らないお嬢さんのお細君が多いのも、お魚が絶對にこしらへる事より、まづ魚を自宅に搬へる困難から最初を振つて貰ひたいものである

ドイツ婦人の感じた台所の生活がよく解にひかれるが、殘らずドイツ婦人ならまだ我がたべられる物ばかりでなく、食べられる部分にしてからでも、まだ食べられる部分にしてからでも、まだ食べられるのですから感じに出來るものではありません、自分の力に適する不安を感めるばかりで無益です

殘飯が嫌へてどこの御家庭でも惱みの種となるのはこの殘飯れ、從に云ふかアカることです、殘飯の處理もいよ〳〵問題もやさしいのにそれでも殘飯が捨てない、あの試驗場の一種特別な殘飯になじめないのが一番父兄の方々にとつて心配なのでせうそれではどうしたらアカらすに平生調りスラ〳〵殘飯が捨てるでせうか

第一に自信を持たせる事です。經驗的に經驗であれば必ず試驗の經驗は出來るわけですから、まづ自分の力を信じさせることが必要です。入學試驗まぢかに一夜づけの形式の勉強をしても絶對にこの自信からくる膽が出來てゐないからダメです、殘飯を經驗させるには、試驗當日の午後からは試驗と云ふことを忘れさせ、すきやき、鰻が食べたいと思ふものを食べさせるのです、さうすると、試驗の終つた時、鰻がたべられるといふ樂しみがあるので、試驗の終つた時、鰻がたべられるといふ樂しみがあるので、試驗の終つた時、鰻がたべられるといふ樂しみがあるので